

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（6月）

留学先：東呉大学

氏名：大戸彩未

台湾での留学生活が始まってから4か月が経ちました。私は海外に長期滞在したことがなかったので、一学期間も滞在するのは長いと出発前は思っていたのですが、実際に生活してみるとあっという間に時間が過ぎていきました。今月は台湾の端午の節句、期末テスト、最後のFarewell Partyについて報告します。

端午の節句

日本では5月5日が端午の節句とされていますが、台湾にも同じような伝統があります。台湾では旧暦の5月5日が端午の節句となっていて、今年は6月18日でした。学校のカレンダーにも**Dragon Boat Festival**と書かれていて、その日は学校がお休みでした。



日本では粽を食べるように、台湾では粽子というものを食べるそうです。大学が粽子を留学生に分けてくれたので、友達と一緒に食べてみました。私は日本で粽を食べたことがないので日本との違いはわかりませんでした。もちもちしていてとても美味しかったです。

期末テスト

6月は台湾での後期の終わりということで、月末に期末テストがありました。4年生の科目を取っていると卒業に合わせて少しテストの時期が早くなります。テストの形式は中間テストと同じようにグループプレゼンや口頭のテストなどがありましたが、**Contemporary East Asian Cultures and Societies**という授業の期末は少し変わっていました。4人グループで宜蘭という地域にフィールドトリップに行き、宜蘭の歴史を伝えるパンフレットを作成するというものでした。福井大学国際地域学部では、課題探



求プロジェクトで日本酒のパンフレットを作りましたが、それに似ている感じです。宜蘭は台北駅から高速バスで70分くらいのところにあるので、一日かけてフィールドトリップに出かけました。私たちのグループはお茶摘み体験をしたり、運動公園に行ったり、夜市に行って宜蘭地域で有名な

ト肉を食べたりしました。初めて行くところばかりだったので、観光のような気分で楽しむことができました。帰ってからは、英語・中国語・日本語の三言語の記事を書いたり、SWOTを考えたり、宜蘭を紹介する動画を作ったり、ポスターを作ったり、提出物が多くてとても大変でしたが、グループみんなで協力して完成させることができました。

また、**Social Policy in East Asia** という授業では、先生からの提案で、最後の授業の日の昼休みにクラスみんなで集まってピザパーティーをしました。このクラスには留学生のほかに現地の英語学科の学生が多かったのですが、日本の漫画やアニメが好きな人や自分で日本語を勉強している人がたくさんいたので、その話題で話が盛り上がりました。台湾の人の中には日本の文化に興味がある人がたくさんいるので、好きなアニメが同じだったりすると友達になるきっかけになりやすいです。普段の授業ではまじめな内容についてのディスカッションをすることが多かったので、授業以外に話をする機会ができて楽しかったです。



Farewell Party

6月29日で後期の授業がすべて終わったので、夜に留学生の **Farewell Party** がありました。パーティーは大学から離れた大きな会場で行われ、みんなで夕食を食べたり話したりしました。台湾の大学は中国からの留学生が多く、またチューターなどをしていた現地の学生も多く参加していたためか、司会の人ほとんど中国語しか話してくれず、私のリスニング力ではまだ聞き取ることができませんでした。留学生が歌を発表したり、抽選会をしたり、いろいろな企画がありました。私が特に感動したのが、現地の学生からのメッセージ動画です。私は日本語学科の学生とよく一緒に遊んだりしていたので、日本語でのメッセージをくれてとても嬉しかったです。



最後に

半年の留学といっても実際の滞在期間は4か月間だけなので、想像していたよりもあっという間に終わってしまいました。しかし、他国の留学生と同じ寮で生活することによって文化の違いや価値観の違いを感じることができたり、日本や日本語を母国や母語としてではなく海外からの視点で見ることができたり、日本国内ではなかなかできないような経験をたくさんすることができました。この報告書が少しでも皆さんの留学の役に立てると嬉しいです。ここまで読んでいただきありがとうございました。